大阿仁公民館だより

第 79 号　　発行　令和元年（2019 年）9 月 1 日

北秋田市移住定住支援室が「A ターン」希望受付中です

8 月 12 日と 13 日に、鷹巣のコムコムで、北秋田市とハローワーク鷹巣が合同で、夏の帰省時期に合わせた移住・就職説明会を開きました。

市の担当部署である、総合政策課移住定住支援室には、今年 4 月から、幸屋の佐藤光一さんが室長となり、移住に関する窓口として仕事をしています。7 月 28 日には東京・有楽町の交通会館にある全国の移住相談窓口、「ふるさと回帰支援センター」で東北 6 県の相談会があり、北秋田市のコーナーには 11 人が相談に訪れました。

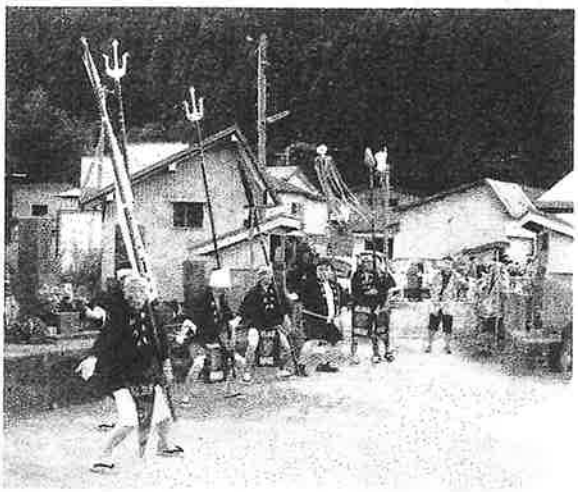
毎年、盆・正月には、大阿仁から都会に出ている人たちがたくさん帰ってきます。その中で、「できればふるさとで暮らしたい」と思っている人も多いと思います。そのような話が出たときは、市の移住定住支援室(0186-62-8002)にお知らせいただくと、就職や補助金などの情報をお伝えすることができます。

北秋田市移住定住支援室の人たち。左から藤島あゆ美さん、佐藤孝一室長、米倉信人コーディネーター。

比立内獅子踊り　８月14日

獅子踊り

駒踊り



纏(まとい)の入場

棒つかい

ご先祖様に焼香します

第２回 大阿仁 ミニフォーラム

移住者を迎える北秋田市と大阿仁の課題

９月 29 日(日)　午後３時～4 時半

阿仁公民館(改善センター)2階研修室

大阿仁地区に移住者を迎えるには、さらに何が必要なのか?

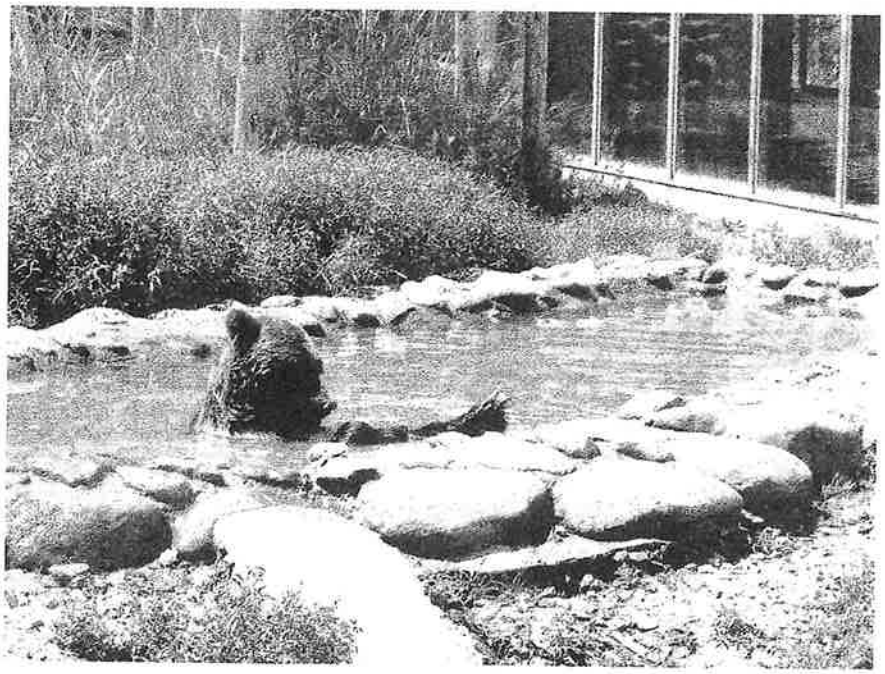
移住してきた若者、北秋田市の移住担当者、地元の人たちが集まって、現状を報告しあい、今後の課題の解決策を考えたいと思います。多くの皆さんの参加をお願いいたします。

報告　益田 光さん(中村・今年春に移住)
　　長谷川拓郎さん(阿仁合コミューン)　など

暑い夏　水不足の夏でした

特に８月に入って気温が高い日が続き、15 日には阿仁合のアメダスが 35.2℃、鷹巣は何と 38.4℃(この日県内最高気温)を記録しました。また、雨が降らずに水道水、用水が不足して、難儀をした人も多い夏でした。

そんな暑さの中でしたが、くまくま園やマタギの湯には、帰省した人たちや観光客が大勢訪れ、にぎわっていました。



「北秋田郡大阿仁村発達史」を読んで（4）

大穂耕一郎

「マタギ」の語源

「大阿仁村発達史」では、「マタギ」の語源をアイヌ語の「マタウンパ」(冬に狩りをする人)ではないかと書いています。マタギの取材を続けていた作家・戸川幸夫も、この説をとっているそうです。「発達史」では他に、民俗学者・柳田国男の「二又になった棒」説にもふれています。

他の説では、アイヌ語で「冬の人」「狩猟」を意味する「マタンギ」「マタンギトノ」が語源とする説、また、昔の東北地方の言葉で猟師を意味する「ヤマダチ」が変化した説、山々をまたぐように歩くから、などの説もあります。

前回書きましたが、五世紀ごろ(古墳時代)には北海道からのアイヌの祖先が東北地方北部に住んでいて、古墳文化の人々と交流をしていましたので、私はアイヌ語語源説が有力だと思います。

マタギの始祖

マタギに伝わっている文書「山立根本の巻(やまだちこんぽんのまき)」、「山立由来の巻」(「発達史」では「山達由来之巻」としている)は、マタギの湯に併設されている「マタギ資料館」に実物と現代語の要約が展示されています。

それによると、平安時代の九世紀、清和天皇の時代に、栃木県日光の男体山の神様・日光権現(化身の大蛇)と、群馬県赤城山の神様・赤木明神(化身の大ムカデ)が、中禅寺湖の領有をめぐって戦い、形勢不利になった日光権現が、ふもとに住んでいた猟師の万事万三郎(「発達史」では「盤次盤三郎」)に加勢を求め、万三郎が弓矢で大ムカデの両眼を射て、日光権現に勝利をもたらしました。

この功績により、日光権現(清和天皇との説もある)から、全国の山で狩猟ができる免許状(山立御免)を授かったというもので、これが「日光派」と呼ばれるマタギの始まりです。

この、日光権現と赤木明神の戦いの伝説は、現地の日光でも語られています。その戦いの場所が「戦場ヶ原」という名前になっています。しかし、日光では、日光権現を助けたのは万三郎ではなく、今の福島県から呼んできた猿丸という猟師で、ほうびに日光一帯の土地をもらったとされています。でも、メインのストーリーは同じなので、単なる伝説ではなく、元になった実話があるのではないかと思えてきます。

万事万三郎が活躍したとされるのは、西暦 850 年ごろ。山立根本の巻が作られたのは、源頼朝が鎌倉幕府を開いた時期、1193 年ごろとされています。古い時代が、とても身近に感じられる物語ですね。

（つづく）